

主図版① 「聖者・大驚」「仁者・心憂」



仁者



聖者



心憂



大驚

図版② 原寸図版



図版③ 比較文字

家蔵本 京博本



11世紀・元祐5年(1090)頃

「北宋・大般若經 残卷」

ほくそう
だいはんにやきようざんかん

原巻の題簽には、「金粟山藏宋人寫佛經卷」とあるが、伝世の金粟山藏經とは、紙質や書風が異なる。古くに片面6行の経折装を巻子に改装されたようである。敦煌出土経とは異なり、珍しい古くからの伝世経である。「根本說一切有部毘奈耶雜事卷第三十四」の巻頭部分のみである。巻末は失われているが、京都国立博物館の守屋コレクションの中国古写経の中に、ほぼ同じ書風の「大般若經」一帖が所蔵されている。その巻末には「大宋元祐五年」の款記を見る事ができる。家蔵本と同じ文字を比較してみた(図③)。ほぼ同系の書である。茶色風の野線が手

書きで書かれているが、元は淡い朱色であったと想像される。書風は、重厚な楷書体である。顔真卿の多宝塔碑の書風を彷彿とさせる。横画は細く、縦画は特に太い。文字の構成は、やや扁平に平たく、隋唐の楷書の構成とは異なる。

この欄に関するご批評、ご意見、ご希望、ご質問などをお聞かせください。
私宛に直接メールで、また編集部宛にお送りいただければ幸いです。

伊藤滋 メールアドレス
mokkei@galaxy.ocn.ne.jp

書道芸術院

平成の群像 (2016)



平成16年（2004年）9月2日 千葉県立美術館（第44回白扇展）



扇舟先生を想う

掲載の写真は、第44回（平成16年）の、白扇書道会展の会場で扇舟先生にお願いして、私の作品の前で写真に入ってきた1枚です。

この当時は、毎回何人かの人が、指名され大作を出品させて頂きました。この年、上村栄芳さん、森舞扇さんと私の3人が指名され大作に挑戦しました。この写真に入って頂いたのが9月2日で、この年の12月2日に扇舟先生は、「90歳」で他界されました。

扇舟先生と2人で、自分の作品の前で写真を撮つて頂いた貴重な写真です。思い起すと、扇舟先生とは、昭和40年頃だと思いますが、当時私は、競書誌を購読し、毎月課題を郵送して「段級が上がる」という勉強をしていまし

た。それはそれで楽しかったのですが、何か物足りなく思っていました。そんな折、「千葉市の大天町に素晴らしい先生がいらっしゃる」と、話を聞き、知人の紹介で入門をお願い伺いました。当時先生は、現役の教師をされており、いま弟子は採っていないと断られました。

小川 弘舟

それから2年くらいして、先生が定年になられたと聞き、再び先生を訪ね入門をお願いしました。すると先生は覚えていて下さり、「そこで見ていなさい」と、おっしゃられ、先生の机の脇で皆さんが持つてくる作品を見ていました。その作品の量の多さには「ビックリ」しました。今思うと展覧会が近かったようで、皆さんは作品を抱えて来て、先生の前に積んでいたのでした。展覧会作品以外では、古典の臨書作品を主体に書いてくる人が多く、古典のカリキュラムが組まれており、それによつて勉強していました。

私も古典中心の勉強に変わり、先生が認めて下さると「合格証」を書いてくれました。次第に書が楽しくなり、これが本当の書の勉強だと思うようになりました。一日中筆を持っていることもありました。

扇舟先生には、書以外にも多くのことを教えて頂きました。中国へも何度も連れて行って頂いたり、私の人生は大きく変りました。

扇舟先生には、心から感謝しております。

書のひろば

理事長 辻 元 大 雲

第69回書道芸術院展盛況の裡閉幕

2月17日から21日まで東京都美術館7棟を会場に第69回書道芸術院展並びに第67回全国学生書道展が開催された。昨年に比べ出品点数がやや減少したものの充実した展覧となつた。

2月8日役員作品を含め陳列全作品が搬入され、9日・10日両日特別賞選考者が院理事監事で構成する選考委員会にて行われ、春華賞、大賞、準大賞など各賞が決定した。

2月16日に陳列作業を150名余のご協力をいただき順調に終了。

2月20日には午後より帝国ホテル富士の間に全国学生書道展の表彰式を受賞者及び多数のご家族指導者のご参加を得て、厳粛な中に喜びの輪で包まれた式典であった。授与は財団役員及びご来賓の毎日書道会専務理事糸賀靖夫様によりスムースに行われた。

続いて同会場にて書道芸術院展の表彰式が同様に行われ、参列者は500名近くと盛大であった。

18時よりご来賓（今回は報道関係、評論家など30名余）のご臨席に合わせ540名余の参加をいただき、孔雀の間東西いっぱいの盛況であった。開宴祝詞、昨年毎日書道顕彰芸術部門受賞の小竹石雲、さらに第67回毎日書道展文部科

学大臣賞を受賞された下谷洋子西氏に、本院より慶祝の記念品贈呈が行われた。祝宴では毎日新聞社広田常務執行役員、全日本書道連盟星弘道理事長、評論家麻生泰久各氏よりのご祝辞、糸賀専務理事の乾杯のご発声で開宴、大いに盛り上がった。

翌21日午前、展覧会場にて作品解説会が各部代表者によって行われ、会場いっぱいの参加者で賑わった。午後2時半からの撤回作業も陳列部、総務部の的確な指示で無事終了した。詳細の報告は次号にて。

第24回国際高校生選抜書展

第25回展実行委員会開催

「書の甲子園」として実績を重ねてきた国際高校生選抜書展は、今回24回目を迎える。2月2日から7日まで大阪市立美術館にて全国各地の優秀作品が展示発表された。

作品は小画仙全紙を中心て臨書、創作含めバラエティーに富み、特に上位入賞作品は高校生離れしたレベルの高いものばかりで本展の充実ぶりを物語っていた。応募総数16000点余の中から入選以上2000点に絞られる厳しさは開催当初からで、更に文部科学大臣賞、大賞などの上位入賞は正に激戦である。

また入選入賞を点数化しての团体賞は例年各校団体が鎧を削る場面である。今年は北海道の旭川西高校が初の全国優勝に輝いた。表彰式後の席上揮毫会では書道バフォーマンスを部員総出で披露してくれた。個人大臣賞受賞者によると盛大であった。

よる席上揮毫も素晴らしい、見応えがあった。



全国の高校生で賑う

6日午後から本年9月募集の第25回展実行委員会が開催され、実行委員長が務めることになっており辻元大雲が大役をお引き受けする。記念展として特別な企画は行わないが、本展開催からこれまでの功労に感謝して功労者表彰に本院恩地春洋顧問が推薦され決定した。感謝状贈呈の期日などは未定。

次回は25回記念となる本展へ書道芸術院会員諸氏からのご出品ご協力をよろしくお願ひしたい。

恩地春洋「捨の終焉」個展開催

本院顧問、毎日書道会最高顧問など書道界の重鎮としてご活躍いただいた恩地春洋先生が、東京銀座の文春画廊にて「捨の終焉」と題して久しぶりの個展を開催された。

会場一階には恩地先生率いる春洋会



朝比奈社長・恩地先生を中心に

村山元信(機雲)遺墨・遺稿集刊行

平成25年10月17日、惜しまれつつ64歳の生涯を閉じられた元本院評議員、漢字部常任総務村山元信(機雲)さんの遺墨・遺稿集が刊行委員会(代表世話役辻元大雲)及びご遺族代表村山圭子ご令室により3月中旬に発行される。A4版144頁、1冊=2500円(送料込)。お申込は本院内刊行委員会へFAX(03-3862-1957)又はハガキにて。

の幹部役員が小品を出品、二階で先生のこれまで発表してこられた「捨」の数々の作品、「心」「翔」などこれまでの代表作を中心に展示発表された。会期初日2月1日には毎日新聞社朝比奈社長も会場を訪れ、先生と作品談議に花開いた。体調が万全ではない中での個展開催はいろいろご負担があつたことと思われるが、会期中は東京ホテル住まいでの頑張られた。今後のご健勝、ご活躍をお祈りするばかりである。

漢字(六)

竹本龍汀



竹本龍汀書

だらそのつど文言を選び作品
な作品を書こうかと模索する。気にかかる書展を見に行って感動した作品の写真や書展の特集、諸先生方の作品集のコピーを集める。訳文を調べ片っ端から挑戦してみる。直ぐには書けなくとも気楽に何度も書いてみる。現代の書への挑戦は新たな自分の発見になる。気の向くままに古典臨書もする。いつの間にか新たな作品イメージが浮かん

だらそのつど文言を選び作品
草稿を原寸大で書く。気に入った草稿を写真縮小して気が乗った時に数枚づつ制作する。気持ちが乗って2枚と同じに書けない作品を清書候補に選ぶ。作品制作の緊張感の直後なく客観的な目が戻ってから最後的に清書を決定する。結果、必死に選び抜いた清書より最初の草稿の方が新鮮で良かつたりする。

今回の作品は草稿で生き残った作品。「天衣無縫」のイメージが彷彿として氣に入っている。新しいものを吸収しつつより良いものを求めての試行錯誤の日々だが、夢中になれる書がある人生は実に楽しい。

かな(六)

小島孝予

私の歩む道

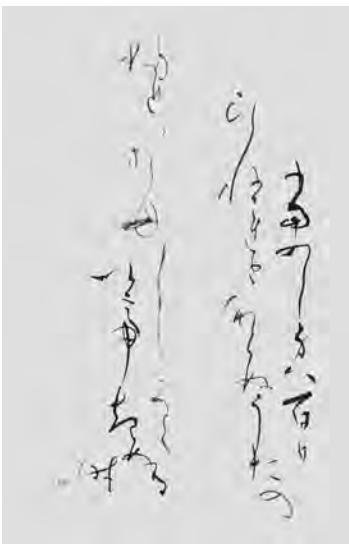
先日「恩地春洋書展」が開催され、懇親会会場は御祝いには参じた多くの方々で埋め尽くされました。諸先生方が祝辞で異口同音に述べられていましたが、恩地先生が闘病の真只中であられることができたのが全く信じられないほどお元気で、その笑顔と優しさで満ちあふれていました。先生の偉大さに感動しました。

昨年の「文春画廊サヨナラ展」に伺った時のこと。恩地先生のお作品「捨」の一文字一文字は、行き詰まっていた私の心に、「余計なことは捨てるのだよ。」と、まるで語りかけて下さっているようでした。私の心に書き、救われた思いになりました。会場にいらした先生にそのことを申

し上げるとニコニコしながら一言、「いつも観てるデ。がんばりや。」とおっしゃり、優しさの中にも厳しさがあり、凜とした思いになりました。先生の慈愛に満ちたお言葉は、私にとってこの上もなく尊く有難く、心の励ました。生涯大切にさせて頂きたいと誓いました。

この度「21世紀の書」に原稿依頼を頂き、自己の「かな書」の原点からみつめ直し、大切なこと、継承したいことが整理できしたこと、そして「今後どのように生きていか」が明確になったことは、本当に有難いことでした。どんな芸術にも、その人の生き方が表われる。作品を作ることは自分自身を磨くことである。広い視野と創造力、柔軟な感性を身につけ、いのちの限り「生きた作品」を作り続けていきたいと思いません。そのため古典を学び、善いもの、本物に出会い、一日一日を精一杯に「今を生きる」ことを目指し、たゆまぬ精進を重ねてまいります。

最後に諸先輩、仲間の方々また家族等に支えて頂いて今日の自分があることに、改めて心より感謝の気持ちになれました。



2015書道芸術院秋季展

小島孝予書

第47回 現代女流書100人展

同時開催=現代女流書新進作家展（第67回毎日書道展会員賞受賞作家）

会期=平成28年1月21日(木)～27日(水)

会場=日本橋高島屋 8階ホール

主催=毎日新聞社 後援=(一財)毎日書道会

△保△

香川倫子



90×90cm

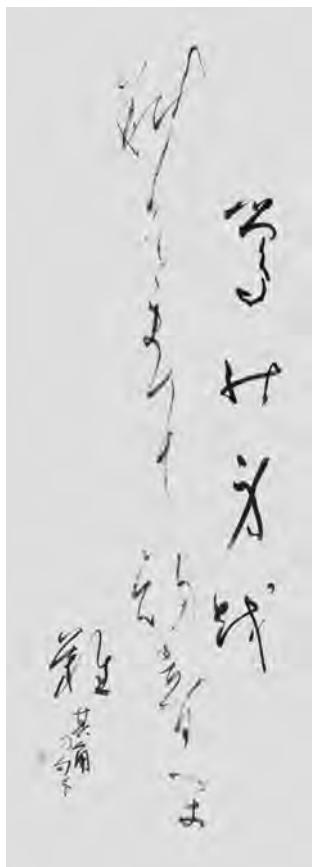
下谷洋子



〈遙かなる〉

76×134.5cm

八
鶯



平川峰子

167×60.5cm

〈勞勞亭歌〉

高田春来



183×91cm



小池蹊舟

〈慈眼〉

卷子 35×23(×6)/35×27.5(×2)/27.5×27.5(×2)cm

齊藤理舟



〈降る雪は〉

84×134cm

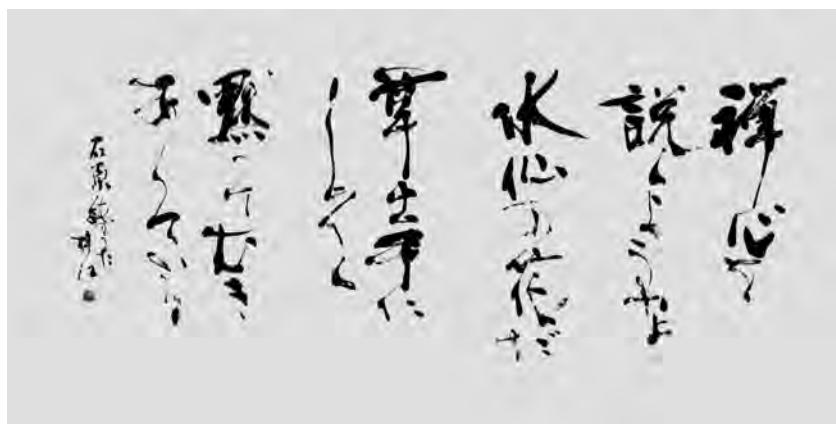
砂本杏花



〈木下利玄の歌〉

97×136cm

山田梓江



〈水仙の花〉

70×139cm

△楚△

小林
琴水



120×120cm

△為△

崎井恵風



135×105cm

△奮△

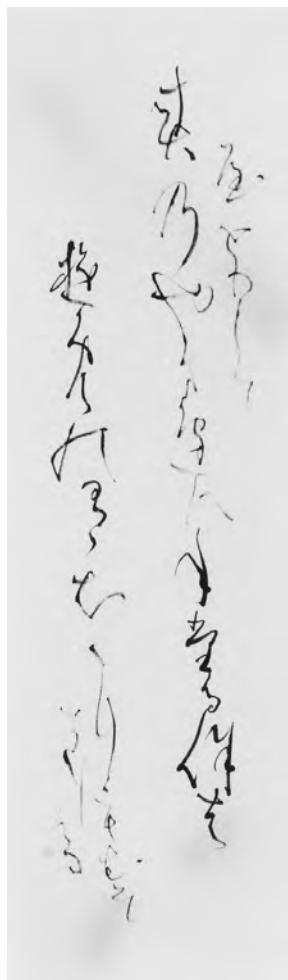
大井
美津江



180×95cm

新進作家展

〈やぎりじて〉



181×53.5cm

村松くに子

〈泉〉



183×91cm

〈絹〉



塚越紅苑

135×70cm

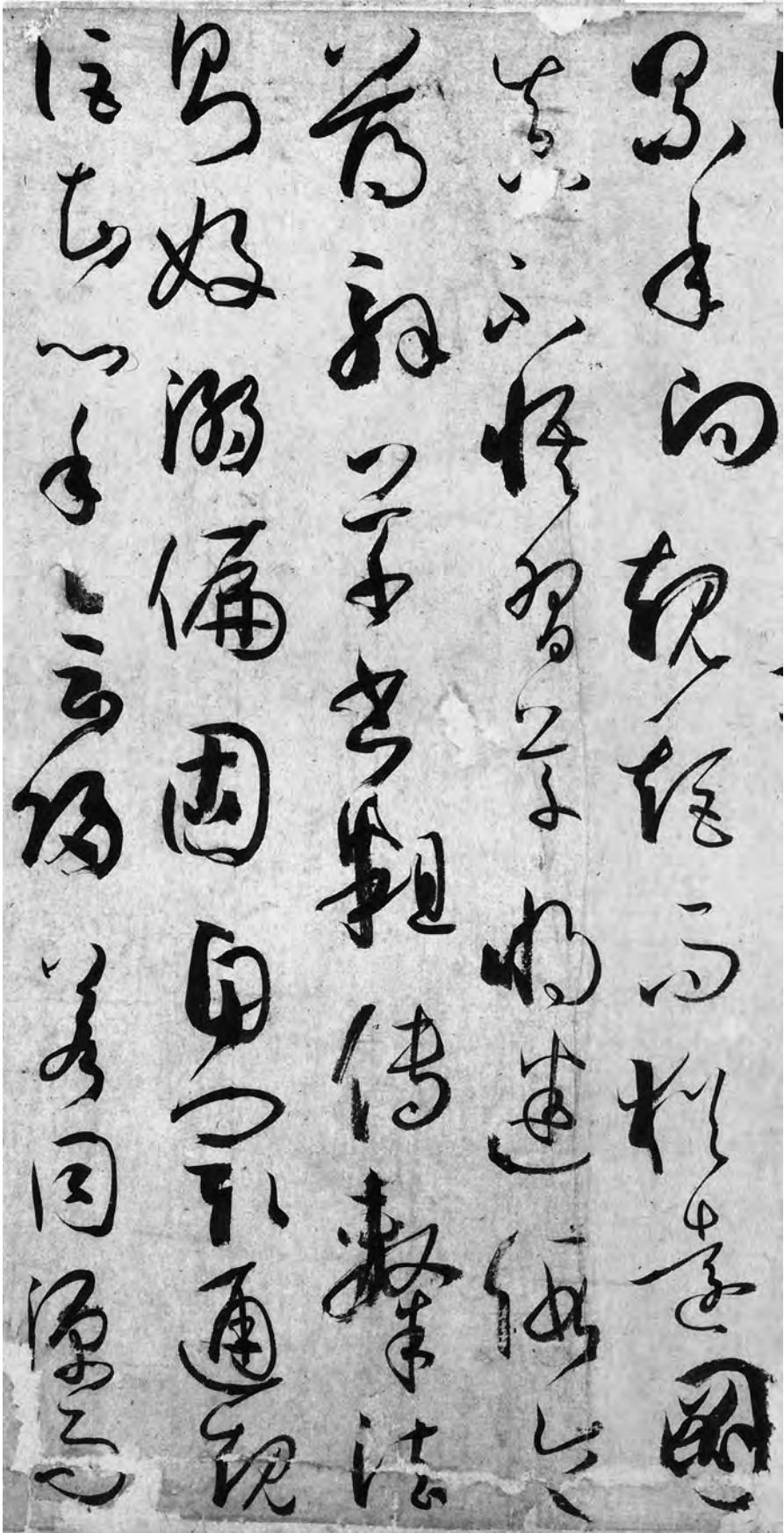
書譜 (唐・孫過庭) ③

〈解説〉孫過庭の草書について、北宋の米芾は「唐代草書中、一王(王羲之・王獻之)の法を心得している点で、孫過庭の右に出るもの無し」と称えた。書譜が書かれたのは唐の垂拱3年(687)。当時、太宗皇帝や三大家(歐陽詢・虞世南・褚遂良)が世を去り、王羲之

書法一辺倒の時代も過ぎ、個性を尊重しようとする新しい書風が台頭してきていた。こうした風潮のなかで書かれた書譜は、王羲之書法の繼承作として、また王羲之を典型に据えた優れた書論として、書道史上高く評価されている。

(編集部)

※落款を必ず入れる
署名(もしくは〇〇臨)
(押印のみ也可)
部分以外も可。



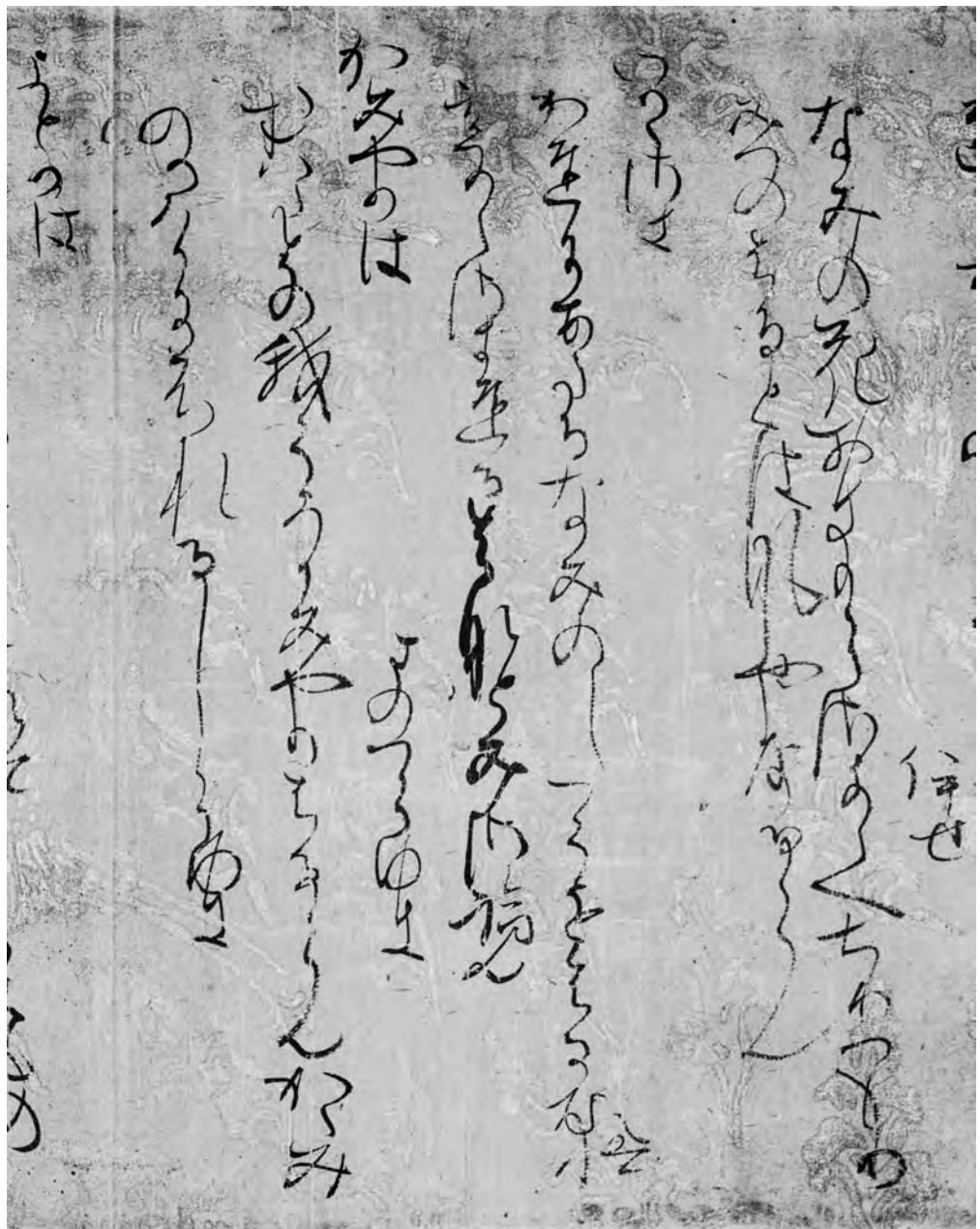
(85%縮小)

累年。向規矩而猶遠。圖真不悟。習草將迷。假令薄解草書。粗傳隸法。則好濁偏固。自闊通規。詎知心手會歸。若同源而

(伝) 小野道風

③

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨(押印のみも可)



(個人蔵)

(半紙普通判(料紙可)・縦長に使用)
別紙を裁断して貼付も可。半纏紙は半紙サイズに切って使用のこと。
左記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨も可)

特別研究部臨書課題

= (毎日展公募サイズ以内・縦横自由) 左記の掲載以外も可。

<よみ>

伊せ
なみの花おきからさきてちりつもり
みづのはるとは風やなるらん
いかじさき
かぢにあたるなみのしづくをはるなれば
いかぢさきちるはなとみざ覽
かみやがは
むばたまの我くろかみやかはるらんかぢみ
のかげにふれるしらゆき
よどがは

<解説> 本阿弥切の書写形式は自由で、変化に富んでいる。その多くは和歌1首を2行で書いているが、1行1首書きや巧妙な散らし書きもある。あるいは和歌1首書き終ったあとに数字分類字を置いて、その後へ次の歌を追い込んで書き始めるスタイルなどは、他に類を見ない。

本阿弥切と同筆の古筆は知られていないが、寸松庵色紙(伝紀貫之筆)・関戸本古今集(伝藤原行成筆)と書風が似通うところがある。

また、本阿弥切は「古今和歌集」の平安時代の古写本として、高野切(伝紀貫之筆)などと並び書道史上貴重な遺品である。

(※掲載図版は原寸)

(編集部)

習い方解説 (六)

大野祥雲

衆心成城
(國語・周語下)
(衆心城を成す)

沢山の人の心が一致すれば、城
のように堅固になる。

「衆」筆先を利かせ、息長く、紙
にくい込む強い線を目指す。

「心」筆を立て、伸び伸び運筆し、
明るい字形にした。こうした画数
の少ない文字は気脈が大切。
「成」第1画を力強い線とし、2
画の横画を切り込み、3画へと続
く。斜めに突き出したほこづくり
が目立つが、途中で引き返して払
いに移り、最後は点で締める。
「城」偏の土を直線的に切り込み
旁へ移る。成が続くが同じ構成に
ならないようにした。内部にある
白が大切。

衆心成城 よみ(衆心城を成す)

書体=自由



習い方解説 (六)

名 越 蒼 竹

養志在沖虛
(阮籍)
(志を養うは沖虛に在り)



養志在沖虛 よみ(志を養うは沖虛に在り)

書体=楷書

私の今回の担当も最後になりました。半紙5文字の課題として六朝北魏書の雰囲気で書いています。とは言っても、龍門造像記のような鑿の跡を強調したものではなく、少し形が整い始めて穩やかさも兼ね備えた書風です。激しすぎると合わないのでありますから、書き方では課題文の意味する内気は、できることなら関係性をもたせたほうがよいと思います。短い語句ほどそう言えるかもしれません。

は書写体を用いました。字間の白がはっきりと見えるように字の中の空間を引き締め、横画の強さを出してください。「虚

ばならないわけではありませんが、

言葉の意味と表現する作品の雰

た結果です。絶対にそうしなけれ

ばならないわけではありませんが、

言葉の意味と表現する作品の雰

たせたほうがよいと思います。短

い語句ほどそう言えるかもしま

せん。

かな規定 初段以上 【四月十五日締めきり】 用紙 半紙普通判(料紙可)

平川峰子選書

習い方解説 (六)

平川峰子

はるかぜ
春風にしら麿白し松の中
(小西来山)

よみ方

よみ方 春風に(一)しら麿白し(志)松の中 来山句

創作

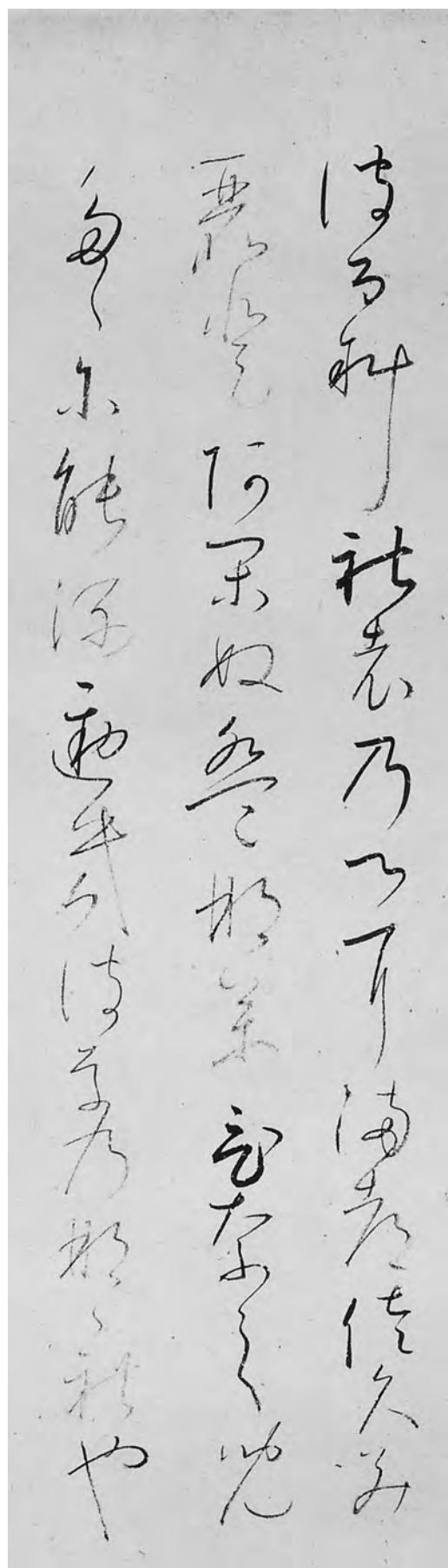
俳句を作品にする場合できるだけ作者の用いた漢字やかなを使用した方が良いと思いますが、かな作品としては単調になってしまることは否めません。そこでにを二に2つあるしの内1字を志にしてみました。また、春風をはるかぜとひらがなにして、4文字を全部変体がなに置き換えて連綿体にし、行を長くすることも一案です。2行目に変化を付けるため、左右の余白への響き合いを考慮しながら少しずつ右に寄せて書いてみました。終句の松・中を分けて構成しました。終句の松の中を分けて構成しましたが1行にしても良いでしょう。作品制作をするには、常日頃から良い作品を鑑賞することが大切です。字の大小、線の太細と墨量の変化、リズムにも配慮してください。



かな規定 秀級以下 【四月十五日締めきり】 用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて 32センチ・よこ 12センチ)

掲載写真の和歌を全臨、または部分(二字以上の連綿)を臨書する。

高野切第三種
(掲載写真縮小 93%)



よみ方 は(本)のぼの(へ)と曙色なが(可)らや春の雪(遊文)
よみ方 は(波)る(留)さ(斜)れ(礼)ば(者)の(乃)べ(部)に(耳)ま(満)び(都)さ(佐)く(久)み(美)れ(麗)ど(翁)あ(阿)か(闇)ぬ(奴)は(盤)
な(那)ま(萬)ひ(飛)な(奈)し(ア)に(兒)た(多)びに(尔)の(能)る(流)べ(邊)き(幾)は(波)な(奈)の(乃)な(那)れ(禮)や(也)

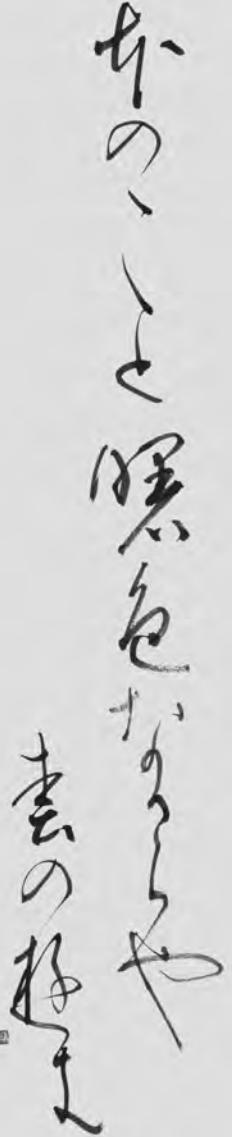
かな条幅規定【四月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

奥田瑞舟選書

習い方解説(三)

奥田瑞舟

ほのぼのと曙色ながらや春の雪
(原 石鼎)



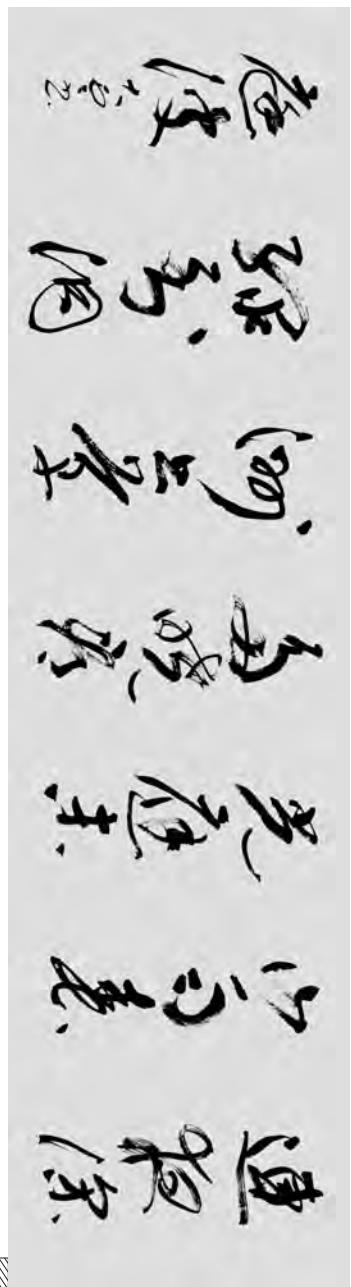
最初の字本は小さめに。く、くどちらでもよろしいが、ゆつたりと間を取る。下の「と」が続いても可です。中央の曙色は大きくなりすぎないこと。
墨色を美しく仕上げて下さい。

よみ方 ほ(本)のぼの(へ)と曙色なが(可)らや春の雪(遊文)

創作

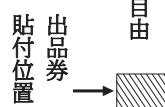
*たて形式に限る

辻元大雲



連夜深山雨 春光應未多 晚看洲上草 緑到洞庭波
(連夜深山の雨 春光應に未だ多からず 晚に看る洲上の草 緑は到る洞庭の波)

書体=自由



各担当の最後は横形式での表現を課題としております。
春の洞庭湖の情景を謳った絶句です。20字ですので7行、各3字をベースとして構成してみました。
2~4字と変化させてみるのも一法です。潤渴、大小の変化をバランスよく取り入れて紙面に動きを与えるよう工夫してみてください。

*よじ形式に限る

漢字条幅規定 秀級以下 【四月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

坂本素雪選書

習い方解説 (六)
坂本素雪



書体=自由

—花はひっそりと落ち、山に鳴く鳥の声も寂しく、岸の柳は水を渡る人の目に痛々しいほどに青さがしみる—の意。「寂・啼・柳」の縦画は伸び伸びと3本の線質とも変化をつけて。「寂々」「青々」のような繰り返しの点々や、1本の線の中の強弱、変幻自在な運筆と躍動感あふれる線質で挑戦してみて下さい。特に最後の「人」の終筆は、角度や線質の変化を試して下さい。

落花寂寂啼山鳥 楊柳青青渡水人
(落花寂寂山に啼く鳥、楊柳青青水を渡る人に)
(王維)

習い方解説 (六)

小伏小扇

夏目漱石の草枕の冒頭部分です。

山路を登りながら、こう考
えた。智に働けば角が立つ。
情に棹させば流される。

意地を通せば窮屈だ。兎角
に人の世は住みにくく。

草枕より 小扇書

山路を登りながら、こう考
えた。智に働けば角が立つ。
情に棹させば流される。
意地を通せば窮屈だ。兎角
に人の世は住みにくく。

美しい日本語を味わいながら、旋律
を奏でるように、集合体としての文字
の流れを勉強しましょう。

「角」と「世」は書写体を用いました。

※落款を必ず入れる。
(自分の名前を入れること)

用紙=はがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

書体=自由

今月の

各部総評 木一作品 NO. 657

No. 657



かな条幅部 準師範 工藤 香蘭
やや淡墨で控え目な運筆ながら
滑らかに流れる。手本を確実に理
解しての自分のリズム、更に期待。
◎かな条幅部 総評 変体がなの二
を小さく書きすぎると漢字の繰り
返しになります。慣れない方は、
まず手本を消化したい。(洋子評)

漢字部 部師草 新爽風
ねばり強い筆致で動きある表現
に魅力あり。落款や雑に見える。
最後の要であり大切にしたい。
◎漢字部総評 上級 5 文字表現や
や小さくまとまつた作多し。紙面
の動きをもつと工夫したい。下級
も同様の傾向あり。
(大雲評)



◎漢字条幅部総評 上級は行草書が多くの出品されたが、字形不正確な作も見られた。文字調べを着実にしての制作が大事。（萬城評）



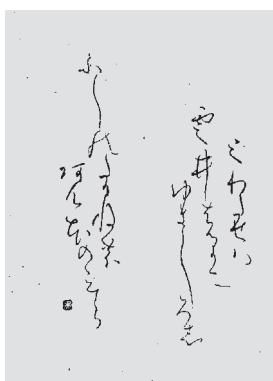
前衛書部 特選 佐藤 成美

◎前衛書部總評 創意が伝わる作品が多く見受けられた。印の位置と大きさに注意を。
(蓮紅評)

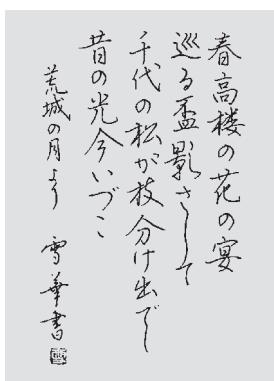
現代詩文書部 特選 千葉 光龍
リズミカルな筆致が紙面に踊る
ように舞い、明るく楽しい作。雅
印あればなお良かった。
◎現代詩文書部総評 楽しい作が
多く応募される方の姿が見えるよ
う。落款を丁寧に。
(大雲評)

福壽堂：柳家集子のと
ふくじゅうどう：やなめいしのと

ペン字部 師範 権代 雪華
行書の流れが美しく、名前まで一貫して見事である。空間の取り方も群をぬいてよく全体に調和している。
◎ペン字部総評 行書はどうしても流れ過ぎて弱くなる。しっかりとした楷書の字形をくずし行書にする
ことが大切である。
(蒼玄評)

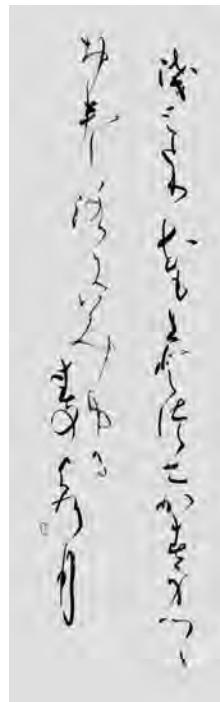


かな部 **師範** 真下美佐代
無理のない運筆に魅了される。
かな作品に求められる総ての要素を満たして、志の高さが伺える。
○かな部總評 テキストから半紙の大への拡大の失敗多出。練習の繰返しで解決を!漢字書、変体がな農に誤字多く残念。
(明子評)



今月の

特別研究部優秀作品(特選)



藤原三枝子書

174×54cm

かな (松延) 藤原三枝子 「春のよの月」



阿部恵泉書

55×174cm



現代詩文書 (大雲)

阿部恵泉

- ◆微妙な潤渴の変化が表情を見せ、行間の広い余白が明るさを感じさせる。下部かなばかりで寂しい。
- (大雲評)
- ◆一見変哲も無いが、しんしんとした静か極まりない情景が浮かび、ただ胸が熱く痛くなる想いで拝見。
- (洋子評)
- ◆厳冬の海を詠む作者の情感を捉え、深く深く沈み込む。若干の遊びがあるがそれが必要かどうか疑問。
- (龍雲評)
- ◆たっぷりと取った字間・行間の白さが効果的。冬の海をうつた詩。木訥な筆致ゆえに見る者の心に重く迫ってくる。(紅瑠評)



部分拡大



163×45cm

「見附拓詩」

臨書 (紅瑠) 岸 綾夏

「書譜」

- ◆やや紫系の紺紙に鮮やかな銀泥の線が冴える。書譜の軽快なリズムをよくとらえて技術の安定を感じず。
- (大雲評)
- ◆相当書き慣れているのか、練度高く忠実に原本を捉えている。波法も美しく文字が前面に浮き出す。
- (龍雲評)
- ◆相手書き慣れているのか、練度高く忠実に原本を捉えている。波法も美しく文字が前面に浮き出す。
- (洋子評)
- ◆絢爛豪華な筆致が美しい。伸びのびと自分の呼吸で臨んでいながら確実に捉えた姿に感銘。
- (洋子評)
- ◆軽妙なリズムで書き下ろし、紙面に動きを与えていた。柔らかな線質に好感するが、更に厳しさもほしい。
- (大雲評)
- ◆軽妙なリズムで書き下ろし、紙面に動きを与えていた。柔らかな線質に好感するが、更に厳しさもほしい。
- (紅瑠評)
- ◆自然な運筆で軽やかなリズムが快い。墨の濃淡も料紙によく調和し美しい。高度に洗練されたかな作品。
- (紅瑠評)

(運紅社) 田村紅泉 「羽ばたく」



180×60cm

田村紅泉書

◆何よりスケール大きく、豪快。

重厚かつ粘りある書線が見事。上部の2つの始筆に変化がほしい。

(紅瑠評)

◆重厚なねばりある線質が作品に厚味を与えている。渴筆の広がりが何ともいえず心豊かな作品。

(大雲評)

◆重厚かつ粘りある書線が見事。上部の2つの始筆に変化がほしい。

(紅瑠評)

◆堂々と前衛の醍醐味。勢いと深さ、全身全靈をかけたその姿が見えるよう。繊細さも…は欲張り?

(洋子評)

臨書 (宗苑社) 茂木絢水

部分拡大



137×35cm

茂木絢水臨

「本阿弥切」



60×180cm

江本興舟書

◆本阿弥切の粘りと弾力が適格に表現されて見事。渴筆も筆先がよく捻転している。頗もしい書き手!

(大雲評)

◆ほぼ原寸による的確な臨書。細部の観察もしつかりしており、練習量が想像される。更に工夫が発展を。

(洋子評)

◆小粒の文字をよく観察し筆先をよく効かせ最後まで安定した氣分で書き連ねられている優美な臨書。

(龍雲評)

◆横物はまとめ方が難しいが、筆2本の弾力を駆使し、打楽器的リズムが湧く。より工夫を希みます。

(洋子評)

◆2本の筆を巧みに使い、キリッとした鋭い書線が魅力の作品。全体の空間構成も美しい。

(紅瑠評)

漢字 (大雲) 江本興舟 「七言絶句」

創作の部(51点)

漢字

かな

現代

1点

篆刻

1点

前衛

1点

漢字

かな

現代

漢字研究部
(書譜)

選評 小浜 大明

今月のホープ作品



小川香燐

漢字研究部 特選 小川 香燐

字典で調べてから書いてほしいと思われる作

品も少なからずありました。特に「垂」の字の間違いが気になりました。その他、「入」や「獸」の右払いの用筆の違いも何点かに見られました。「入」字の起筆を見るとわかりますが、筆の穂先は線の下方を通過しています。この様な点にまで注意を払って臨書さ



筆勢強く張り詰めた線が魅力の作品です。 適麗にして絶妙の筆致で書かれた書譜の特徴を見事に表現しています。大小、強弱、肥瘦がバランス良く組み込まれており、変化のある秀作です。

◎漢字研究部総評

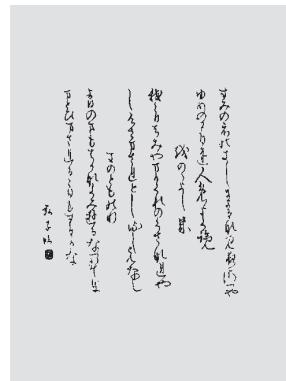
全体的に細部まで心をこし、用筆も立派な作が多く寄せられました。そのような中で、

れることが大切でしょう。

かな研究部
(本阿弥切)

選評 庄司紅邨

今月のホープ作品



西岡弘子

○かな研究部総評
自在に運筆された書体を自分流に書写せず、作品をよく理解し正しい転折で書きましょう。「幾」の字の誤りが目立ちました。かな辞典で確認を。

典雅優雅な本阿弥切の雰囲気をよく理解し、向合った臨書作品になりました。行の流れも的確に表現し、高い気品と連續の美しさが素晴らしいです。

かな研究部成績表

大有正う椿燈 雲秋華る翠春 秀	大玉澄玉た玉安大玉青正電高雲京澄竜玉洞う澄宗A一心 雲松春松か川波雲松蓮華泉井溪橋春泉書る春苑！心
磯石飯安阿青 貝川高藤木作 知美部美 清洋津代津松 耀子子生子江月	日長深青猿梅野小黒田沼加高榎仲吉宇後橋安木深茂藤西 高谷堀木渡津中野柳中田瀬橋田西田藤本澤木村岡 川佳寺明川 右千清菴代喜久竹耶奎日雅和游佑春良紅楊順佳絢昌弘 真峰洗鷺子子美葉衣心夏泉子溪子麗風月水子
高陵佳	竹椿墨石高蓮大遊大倉生千一大竜紅 扇翠宣習井紅阪雲阪吉大葉宮雲泉瑠
會木作 勇介	A弘千正硯清若幕生福樹書玉東う八 舟葉華水月葉張大山原游松総の戸
生仙松もく入	山安真松本浜西中中豊戸鶴積土須鈴清波渋柴小工北菊川葛小小薄今市 村鳩丸田田澤村江田村田田谷木水谷田林藤村池崎野川田閑川 眞み由田 炎砂ヶ愛代美香彩由よ翠博雅稚つ香睦紀愛洋翠嘉山惠善綾恵こ香綠華泉
新熱浅阿青 井海川久木 み澤	吉行山大山矢森茂宮宮松蔵福春昌長根丹土塙高鈴菅實新下塩佐齊齋斎斎 川平本和崎口田木崎川浦苗田山岡山谷津羽井本井木沢川行田崎々藤藤峰 万川美ち内加木由 幸良真紀香登龍翠英洋玉真里勝聯芝飛恵弘え小利合仁義美翠つ
秀安華士富八松童蕙昌潮樹蒼大土大広附英高彩梓大皓華 水波仙氣貴生村泉書苑原陽阪氣雲島中峰崎 砂鈴鈴杉菅篠鹿櫻坂坂齋込大小高熊国吉北岸川河神加片小小岡大大梅梅生曰植宇岩岩岩井犬伊伊板石生飯 川木木田原田木本巻藤野山林島武谷峰瀬村田元合尾藤岡野野熊部森石山原方井田割根田瀬上野銅藤藤垣崎川駒田 恵世 洋や智祥昌志龍里麗杏遊美萩夕玄紫理彩欣東茱和美雅照加萩代久喜星久虹美綾美楠祥恵博祥陽郁玉道良寿悦青甘代萩光子 風子江貞美苑邑山艸江城蘭佳雨子子仙敬惠芳德都光子代祥子祥子乃枝麗苑峯子園光子香石佑子鳳雨子花彩	
選漢苑美紅游扇門ま川葉か江汀川 158吉吉横遊遊山山山谷森本望富湊三松松増増前堀北別船平平平平浜濱花長野西中仲中豊富渡徳樋筑田田田高高住 名氏千鶴翠蘭紅一梅清律美睦明桂津美敏翠翠佳華榮幸靖信裕優だ彩美永竹智久奈裕瑠一芽 裕さか理白紀萩雪宏恵良哲幸賢和	幕千長澄華大泉前竹土長千椿やた洞秀は土白土一土玉皓秀白春大た秀春大や澄幕高陵外 張葉月春仙雲会橋扇氣月葉翠まか書水セ氣珠氣草氣川映水瀬汀阪か敵汀阪ま春張陵 吉田山佐佐本中口知田吉月野鼻滿妃 鶴翠蘭紅一梅清律美睦明桂津美敏翠翠佳華榮幸靖信裕優だ彩美永竹智久奈裕瑠一芽 裕さか理白紀萩雪宏恵良哲幸賢和